

中学校再編について考える

問合せ先 学校教育課学校教育係 ☎3929



現在の市内4中学校の生徒数は、昭和37年のピーク時に比べ約5分の1程度に激減しており、宅地開発等の影響を含めた転入や転出などの社会増減を加味しない趨勢による今後の推計では、さらに減少していくことが見込まれています。

学校が小規模化した場合、「少人数によるきめ細かな指導ができる」「学校行事などで一人ひとりの活躍の場が増える」などのメリットがある一方で、「子どもが幅広いふれあいの中で学び合う機会を持つことが難しくなる」「教職員定数の関係から教科指導の専門性が確保できない」などのデメリットもあります。

下田市総合教育会議では、平成27年3月26日に下田市教

育委員会へ提出された下田市立学校等再編整備審議会からの答申内容のうち、中学校再編に関する部分について、学校再編スケジュールや生徒数の推移の検証、アンケート分析などを行い、再度慎重に協議、検討し、報告書を取りまとめました。

総合教育会議検討概要

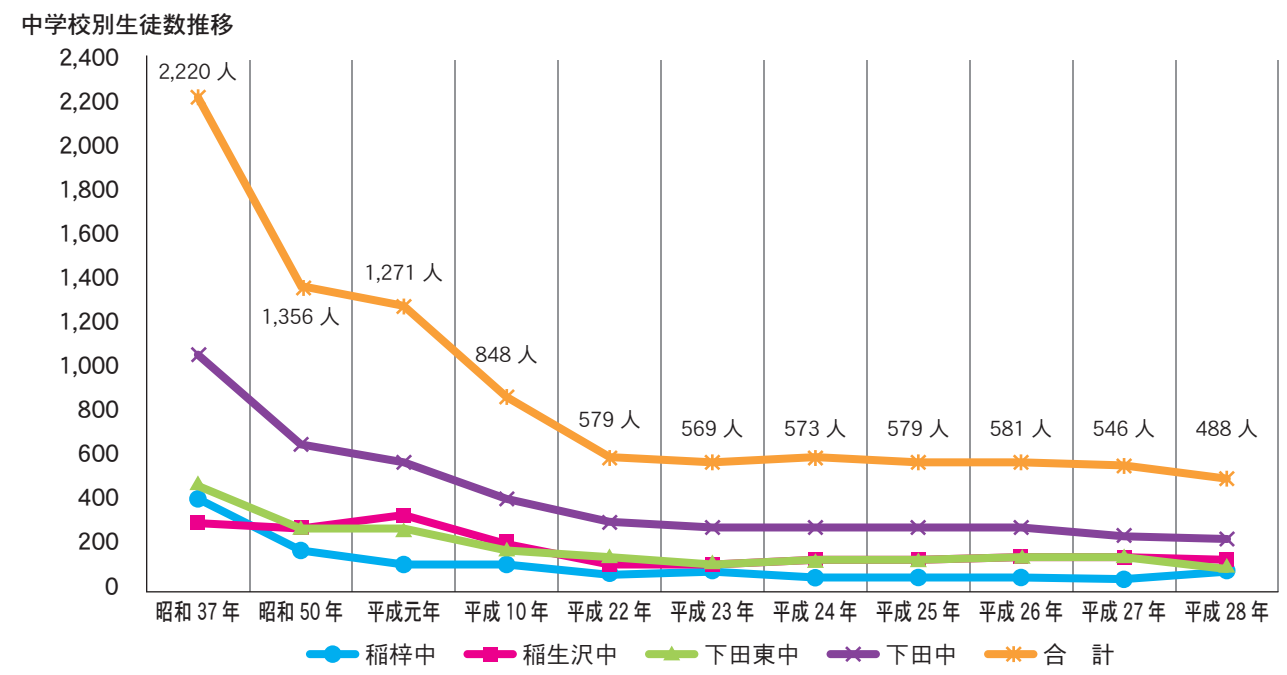
今回の広報しもだではその概要についてお知らせします。

下田市総合教育会議では、平成27年3月26日の下田市立学校等再編整備審議会の答申内容のうち、「稲梓中学校と稲生沢中学校の統合、下田東中学校が単学級となった場合の下田中学校との統合、更に将来において、下田市に中学校

中学校の生徒数の推移や推計から、これからの中学校のあり方を考えてみましょう

これまでの中学校別生徒数推移

これまでの市立4中学校別の生徒数推移です。4中学校合計生徒数は、ピーク時の昭和37年では2,220人でしたが、平成28年5月1日現在では488人と約22%まで減少しています。



中学校生徒数・学級数の将来推計

平成28年4月1日現在の住民基本台帳行政区別・年齢別人口調べを利用した「平成39年度までの想定生徒数」は表のとおりです（平成28年度のみ平成28年5月1日現在実数）。

4中学校合計生徒数はさらに減少し、平成39年度で365人となる見込みです。

なお、学級数については、法律で定められている現行の「1学級40人」での推計を示しています。（平成28年度のみ平成28年5月1日現在実クラス数）

平成39年度までの想定生徒数（単学級色付け）

	平成28年度(488人)				平成29年度(462人)				平成30年度(465人)				平成31年度(458人)				平成32年度(443人)				平成33年度(431人)			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
稲梓	19	20	17	56	14	19	23	56	21	14	19	54	13	21	14	48	17	13	21	51	14	17	13	44
稲生沢	36	46	40	122	41	38	51	130	28	41	38	107	24	28	41	93	27	24	28	79	39	27	24	90
下田東	27	28	37	92	38	28	29	95	30	38	28	96	35	30	38	103	34	35	30	99	32	34	35	101
下田	63	59	91	213	61	62	58	181	85	61	62	208	68	85	61	214	61	68	85	214	67	61	68	196
	平成34年度(434人)				平成35年度(429人)				平成36年度(420人)				平成37年度(399人)				平成38年度(396人)				平成39年度(365人)			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
稲梓	16	14	17	47	9	16	14	39	15	9	16	40	8	15	9	32	8	8	15	31	6	8	8	22
稲生沢	29	39	27	95	38	29	39	106	28	38	29	95	25	28	38	91	31	25	28	84	22	31	25	78
下田東	36	32	34	102	28	36	32	96	39	28	36	103	25	39	28	92	31	25	39	95	24	31	25	80
下田	62	67	61	190	59	62	67	188	61	59	62	182	64	61	59	184	61	64	61	186	60	61	64	185

結論の趣旨

- ① 稲梓中学校と稲生沢中学校を統合したとしても再び単学級の発生が近い将来見込まれるため。
- ② 国が示す標準規模校の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせていくため。

また、新中学校候補地については、中学校設置基準、既存4中学校跡地の活用、防災面での安全性及び国の基準を参考にしながら市内全域からの通学を考慮し検討した結果、現在の稲生沢中学校または下田中学校とするのが望ましいという結論に至りました。

今後については、本報告書に基づき、保護者、地域住民、学校関係者から成る「下田市立中学校再編検討会議（仮称）」の設置、併せて保護者、地域住民への説明会を開催しながら、更なる中学校再編に関する課題の検討を行い、方針等を決定してまいります。

アンケート結果

平成28年1月に保護者及び教職員を対象に実施した「市内4中学校の再編についてどのようにお考えですか」の回答結果です。

回答者数

- 賛成 579人(51%)
- 反対 136人(12%)
- どちらとも言えない 416人(37%)
- 合計 計1,131人

(保護者984人、教職員147人)

「賛成」回答理由

- 「部活動・学校行事の充実」「人間関係の構築」「学習・環境の改善」

「反対」回答理由

- 「通学について」「学習・環境の変化」「伝統・地域性」への不安

「どちらとも言えない」回答理由

- 「通学について」「学習・環境の変化」「伝統・地域性」についての説明不足